



カトリック桐生教会

明治39年、フランス人宣教師カジャック師が本町四丁目近藤源造宅で桐生で最初にミサを捧げた。大正元年、近藤氏はカネコヤ糸店を開店し、その2階で昭和初期まで巡回して来る神父によりミサが捧げられていた。やがて教会建設の気運が高まり、昭和8年に現在地を選定、昭和13年に仮聖堂の落成を見た。昭和14年エルネスト神父が着任、信徒数も増え、宣教活動も隆盛になってきたが、戦時中、エルネスト神父は敵国人として強制収容の憂き目に遭った。戦後、昭和22年同神父が帰任すると、昭和24年、仮聖堂を2倍の広さに増築、昭和33年に現在の正式聖堂が完成した。20年間使っていた仮聖堂は信者館に改装し、その後しばらく愛児園（保育園）と併用した。

聖堂は、外観はロマネスク風。内部の尖頭型アーチや窓枠等はゴシック様式が取入れられた鉄筋コンクリート造りの建物で、延面積330.4㎡、建物高さ10.8m、一部が2階、塔は4階で屋根上の十字架までの高さは約20mある。設計は鈴木正治氏、ドイツ人建築技師による監督、施工は鍋栄組である。構造的にも耐震性に優れ、その構造体と内部空間が一体化し、宗教建築としての象徴性を高め美しい。



大聖年（西暦2000年）を機に設置されたライトアップにより、夜空に映える鐘楼はひと際荘厳である。鳴り響く鐘は、遠く黒金教会（釧路）より寄贈されたものである。

今日、バルトロメオ神父のもとに多くの外国人が集い、文化交流の拠点にもなっている風景である。

所在地 桐生市東1-13-27
神父 バルトロメオ